

令和6年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第9号 (水稲)

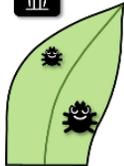
令和6年8月29日発表 (対象期間：令和6年8月下旬～9月上旬)



1- (1)

水稲病害虫の現況と予報 (概要)

病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
穂いもち (中生)	少 (葉いもち)	並 	<ul style="list-style-type: none"> 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
紋枯病	やや少 (発生なし)	並 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季の高温により進み、発病が増加するので注意が必要です。 昨年、発生が多かったほ場は注意が必要です。 防除を行う判断の目安は、穂ばらみ期の発病株率が、中生品種で20%以上になった時です。 防除適期は穂ばらみ期～出穂期です。
トビイロウンカ	やや少 (発生なし)	やや少 	<ul style="list-style-type: none"> 中生品種で、長期残効型箱施用剤（トリフルメゾピリム含有）を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。 トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましょう。 要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
コブノメイガ (中生)	やや多 	やや多 	<ul style="list-style-type: none"> 穂ばらみ期、穂ぞろい期の2回の防除を徹底の上、中生以降の品種で被害株率20%を超える場合、粒剤は発蛾最盛期に粉剤・液剤は発蛾最盛期の7日後防除を行います。 出穂した稲へ産卵はしません。
斑点米カメムシ類	多 	多 	<p>令和6年7月26日発表の 「令和6年度病害虫発生予察情報 注意報第2号」、 令和6年8月9日発表の 「令和6年度広島県病害虫発生予察情報 技術情報 第4号」を参考としてください。</p>

① 穂いもち (中生)		現況	予報
予報の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ● 8月下旬巡回調査では、葉いもちの発生地点率が5.6% (平年37.2%) で、発生程度は1.01 (平年1.10) で、それぞれ過去10年で最も少なくなっています (-)。 また、穂いもちの発生地点率は0% (平年値3.43) です。 (-) ● 中国地方1か月予報では、気温が平年より高く、出穂前後の降雨により、穂いもちの発生を助長します (+)。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">少</div>  (葉いもち)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">並</div> 
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因			

【防除上の注意事項】

- 出穂前後の降雨により、穂いもちの発生が助長されます。穂ばらみ期、穂ぞろい期の防除を徹底し、穂いもちの発生を予防しましょう。
- 葉いもちが多発しているほ場では穂ぞろい期防除の7～10日後に追加防除を行いましょう。
- 以下の「ひろしま病害虫情報 病害虫図鑑 (普通作物)」もご覧下さい。

「病害虫図鑑 (普通作物)」

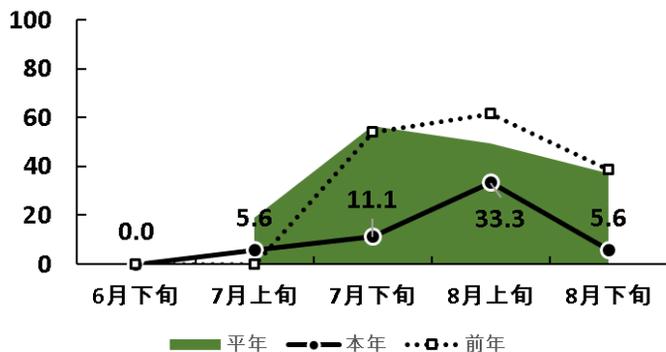
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/futsuusaku.html>

「水稲病害虫調査結果の詳細と発生予測～葉いもち発生予測システム」

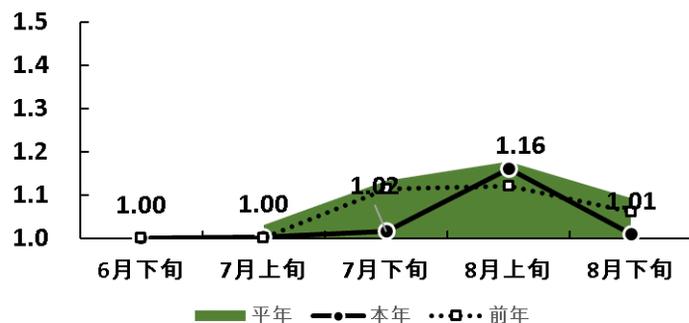
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/suito-imotobi.html>

【巡回調査データ (葉いもち)】

葉いもち 発生地点率 (中生 18地点)



葉いもち 発生程度 (中生 18地点)



穂いもち



穂首部分 (拡大)

② 紋枯病

現況  予報

予報の根拠

- 8月下旬巡回調査では、発生地点率は22.9%（平年46.5%）、発生株率は3.4%（平年7.2%）で過去10年と比較すると低くなっています（-）。
- 中国地方1か月予報では、気温が平年より高く、降雨により紋枯病の発生を助長します（+）。

やや少



並



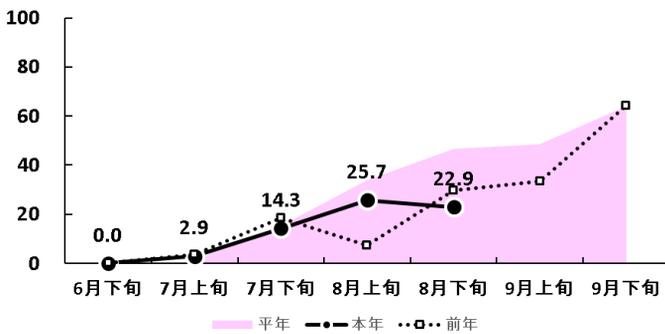
- (+) : 多発要因
- (±) : 平年並
- (-) : 少発要因

【防除上の注意事項】

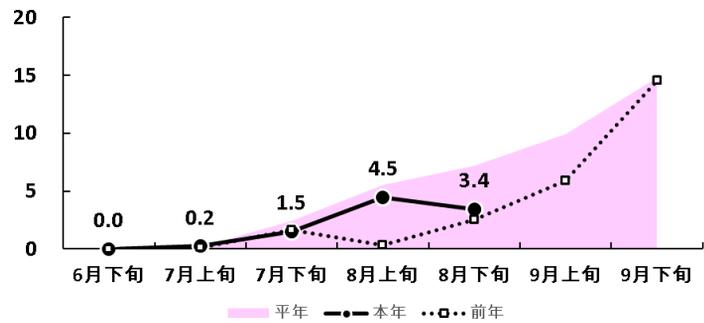
- 高温、多湿を紋枯病菌は好みます。夏期高温や曇雨天が続くことが予想されるときは発生に注意しましょう。
- 昨年発生が多かった場合は、越冬した菌核量が多く注意が必要です。
- 薬剤防除は病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が適期です。薬剤は、病斑のある葉鞘によく付着するよう株元をねらって散布しましょう。
- 要防除水準；穂ばらみ期の発病株率が、中生品種で20%以上。

【巡回調査データ】

紋枯病 発生地点率(県全域35地点)



紋枯病 発生株率(県全域35地点)



紋枯病の病斑

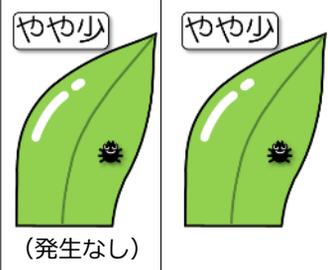
③ トビイロウンカ

現況 予報

予報の根拠

(+) : 多発要因
 (±) : 平年並
 (-) : 少発要因

- 8月下旬巡回調査では確認されませんでした (-)。
- 予察灯 (呉市) で、6/24と7/12に雌成虫が1頭ずつ確認されました。予察灯 (東広島市) では、7/26に成虫が1頭確認されました (+)。
- 8月6半旬の予察田調査では、成虫が2頭確認されました (-)。
- 中国地方 1 か月予報では、気温が高く、増殖に好適です (+)。

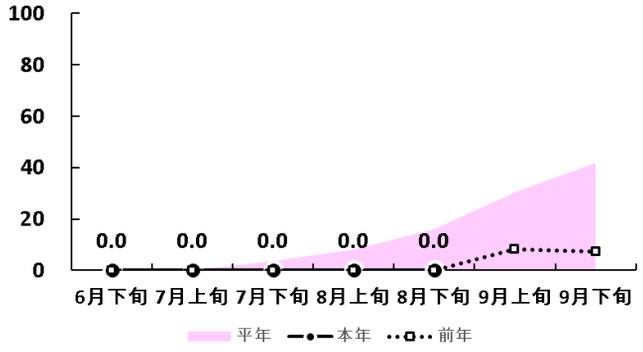


【防除上の注意事項】

- 中生品種で、長期残効型箱施用剤 (トリフルメゾピリム含有) を処理していない場合、ほ場での発生を確認し、発生が見られた場合は防除を行いましょう。
- トビイロウンカの幼虫は、株元に多く生息するため、粉剤や液剤により防除を行う場合は、薬剤が株元に十分届くよう散布しましよう。
- 要防除水準：飛来後第2世代幼虫5頭/株以上
- ウンカ類の払落し調査方法については、「ひろしま病害虫情報」の「[調査の方法](#)」をご覧ください。

【巡回調査データ】

トビイロウンカ 発生地点率(県全域 35地点)



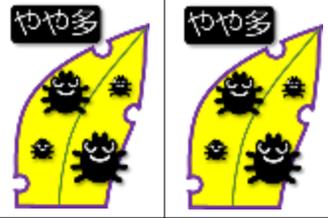
④ コブノメイガ (中生)

現況 予報

予報の根拠

(+) : 多発要因
 (±) : 平年並
 (-) : 少発要因

- 8月下旬巡回調査では、発生地点率66.7% (平年24.1%) で過去10年で2番目に高くなっています。また、要防除水準を超えるほ場の割合は11.1% (18地点中2地点) となっています (+)。
- 中国地方 1 か月予報では、気温が高く、増殖に好適です (+)。

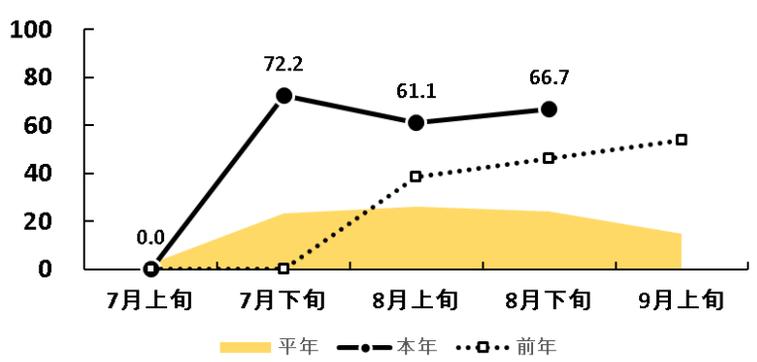


【防除上の注意事項】

- 8月下旬、9月上旬まで食害が続く可能性があります。
- 穂ばらみ期、穂ぞろい期の2回の防除を徹底の上、被害葉が多く見られる場合は早急に追加防除を実施しましよう。

【巡回調査データ】

コブノメイガ 発生地点率(中生 18地点)



⑤ 斑点米カメムシ類

現況 予報

予報の根拠

- 8月下旬の本田すくい取り調査における要防除水準を超えるほ場の割合は57.1%（28地点中16地点）で高くなっています。平均すくい取り虫数は大型カメムシ類で3.6頭（前年1.1頭）の発生は多くなっています（表）（+）。
- イネカメムシの8月第5半旬までの予察灯（呉市）への累積誘殺数は192頭（平年28.1頭）と過去10年で最も多くなっています（+）。
- 中国地方1か月予報では、気温が高く、増殖に好適です（+）。

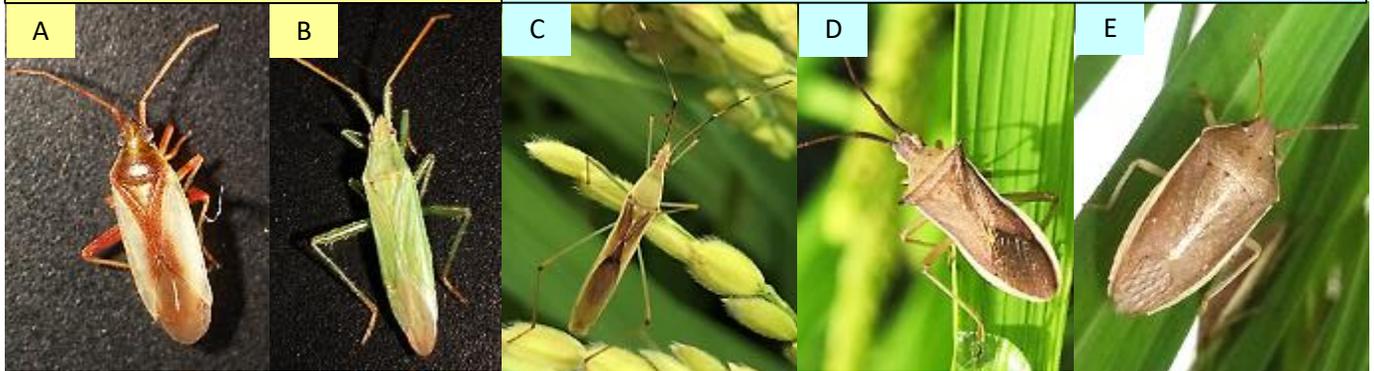


【防除上の注意事項】

令和6年7月26日発表の「[令和6年度病害虫発生予察情報 注意報第2号](#)」、令和6年8月9日発表の「[令和6年度広島県病害虫発生予察情報 技術情報第4号](#)」を参考にしてください。

カスミカメ類

その他加害種



A：アカスジカスミカメ、B：フタトゲムギカスミカメ、その他加害種C：クモヘリカメムシ、D：ホソハリカメムシ、E：イネカメムシ

表. 8月下旬の本田すくい取り虫数（頭）

地帯	区分	令和6年	令和5年	令和4年	令和3年	平均
南部平均値	カスミカメ類	0.3	0	0.0	0.3	0.1
	その他加害種	2.1	0	0.0	20.3	6.8
中東部平均値	カスミカメ類	3.0	1.0	3.5	0.2	1.6
	その他加害種	1.4	0.1	0.0	0.0	0.0
中西部平均値	カスミカメ類	4.6	0.6	7.0	0.0	2.5
	その他加害種	7.4	2.0	3.0	0.0	1.7
北部平均値	カスミカメ類	-	46.8	0.3	0.0	15.7
	その他加害種	-	0.3	0.3	0.7	0.4
県全域平均値	カスミカメ類	2.4	6.4	3.8	0.7	3.6
	その他加害種	3.6	1.1	1.5	2.5	1.7

病害虫名	現況	防除上の注意事項
ヒメトビウンカ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">やや少</div> 	出穂前後の防除を徹底しましょう。 また、縞葉枯病を発病した株は抜き取りましょう。
セジロウンカ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">少</div> 	通常、出穂期以降は水田から移出するため防除の必要はありません。

(広島地方気象台 8月29日発表、8月31日から9月30日までの天候見通し)

- 向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高く、期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率80%です。
- 週別の気温は、1週目は高い確率80%、2週目は高い確率80%、3~4週目は高い確率70%です。

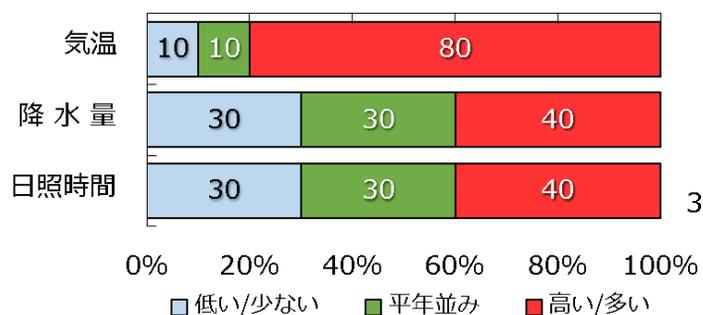


図1. 向こう1か月の平均気温・降水量・日照時間の各階級の確率 (%)

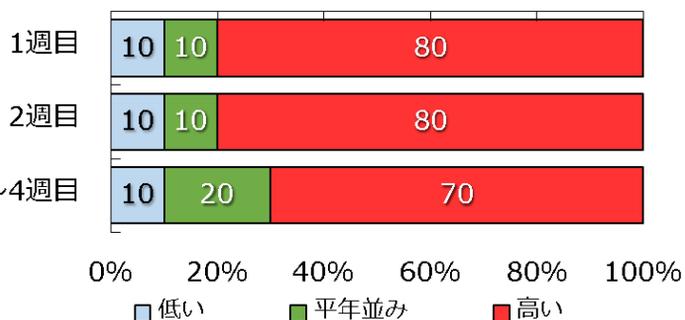
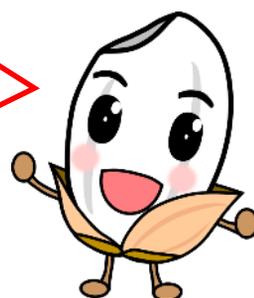


図2. 向こう1か月の気温経過の各階級の確率 (%)

6月1日から8月31日まで、**農薬危害防止運動**実施中！
農薬を使う際は、容器のラベルをよく読んで、使用方法や注意事項を守り、農薬による危害と事故を防ぎましょう。





【現況・予報の区分について】

「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目（最多年）と同程度以上
- 「やや多」 : 2～3番目と同程度
- 「並」 : 4～7番目と同程度
- 「やや少」 : 8～9番目と同程度
- 「少」 : 10番目（最少年）と同程度以下



●PCでアクセス



掲載アドレス↓

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報
QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
〒739-0151 東広島市八本松町原6869
電話：082-420-9662（直通）